

2023年2月18日

関係者 各位

日本ラグロス協会 事務局

夏季における試合催行に向けた協会の方針 (2023年版)

近年全国的に猛暑となるリスクが高まり、ラグロス活動においても暑さに対する一層の対策が必要となっています。関係者は下記内容を遵守し、より安全な運営・行動に努めるようお願いいたします。また、各チームの日々の活動においても、熱中症予防に努めるようあわせてお願い致します。尚、今後にも必要に応じて随時追加見直しや異例の措置・判断等を取る場合があることをご理解下さい。

【協会方針概要（リーグ戦関連の例）】

対象期間	●7月～9月とする。
催行判断	●原則、試合直前の WBGT 値が 31℃以上となった場合には延期する。 ●ただし、協会の認定する「特定試合」についてはこの例外とし、必要な対策を講じたうえで、試合を実施する。「特定試合」についての詳細は、別途『特定試合の認定と対応について』で定める。
チームの対応	●暑さ対策備品の準備を充分に行う。 ●選手・スタッフの、自身の健康管理に努める。
運営の対応	●マッチコミッショナー（以下 MC）の判断で対応を行う。 ●ハーフタイム・クォーターブレイクの延長 原則として、クォーターブレイクを2分→7分とする。 （ハーフタイムは、ルール通り原則10分とする。） 特定試合においては、ハーフタイムを10分→15分に延長できる。 ●ウォーターブレイクタイムアウト（WBTO） 原則実施しないが、悪条件が重なった際の対策として、MCは1試合につき1回を目途としてWBTOを取得できる権限を持つ。 ●セーフティタイムアウト（STO）の実施 試合開始30分前に、MC・チームのSTO対応者・審判員は集合し試合催行の安全に関わる項目をすり合わせする。 ●SGとの更なる連携

※ただし、北海道・東北地区は影響度が低いことから適宜準用して対応する

【高温時の試合催行の判断手順】

・MCは、試合開始時において、環境省熱中症予防情報サイトを確認し、試合会場に最も観測地点の暑さ指数（以下 WBGT）が 31℃以上となった場合は、試合を延期する。また、緊急対応として、WBGT を現場で実測して高い数値となった場合や、急な気温上昇などの天候の変化があった場合には、試合を延期することができる。

・上記の通り、原則として催行判断は試合当日の WBGT 実績値を元に判断するが、運営上の理由により、前日に催行可否を判断しなければならない場合には、前日 17 時時点の WBGT 予報値 33℃以上で試合を延期することができる。その場合の催行判断は、MC または事務局によるものとする。

・協会の認定する「特定試合」においては、定められた対策を講じた上で、試合を実施する。

【ハーフタイム・クォーターブレイクの延長について】

・夏季試合催行時は、クォーターブレイクを2分→7分とする。

・特定試合においては、ハーフタイムを10分→15分に延長できる。

- ・7月から9月の試合では、原則としてすべての試合でクォーターブレイクの延長を実施する。
- ・上記以外の期間の試合では、WBGT26℃以上で適用を検討する。
- ・適用の有無は、天候や試合進行等の現場の状況を踏まえた上で、MC と GD が決定し、STO において両チームに伝えられる。

【事前の準備と心がけ】

- チームとして、熱中症対策の一環として下記の項目を実施すること。
 - ・前日までに、試合当日のベンチ入りメンバーが十分な人数確保できているか、確認する。
 - ・テント、うちわ、氷などのチームの備品や、その他の予防措置に関し事前に確認する。
 - ・試合当日は、選手及びスタッフの体調を確認する。（運営スタッフとして派遣されている時も同様）
 - ・試合当日は、全員の検温結果を確認し、発熱がある選手及びスタッフはベンチ登録をしない。
 - ・十分な量の水分を個人ごとに準備し、こまめに水分補給を行う。
 - ・女子の試合に関しては、試合チームは色を統一した白または淡色系のバンダナ等、手ぬぐい及びタオル類の着用を推奨する。
- 事務局及び連盟として、熱中症対策の一環として下記の項目を実施すること。
 - ・遠方地も含めた新規グラウンドの確保や、早朝・夜間などの使用時間の拡大などをチーム側も協力しながら検討する。（照明基準として JIS 照度基準あり：500ルクス以上推奨）
 - ・試合会場で対応可能な暑さ対策情報を可能な範囲で整理し関係者共有しておく（ex. 日陰・休憩場所、救護スペース、救急病院、テント・氷等。可能なら施設管理者等へ充実化を働きかける）。
 - ・オフィシャル席並びに、両ベンチエリア後方でチーム持参のテント（テント用の重り付）の設置を可能とし、また充電式扇風機等の設置も推奨する（ただし、試合に悪影響を与えるような機材の設置は不可）。
 - ・試合前後や試合中にチーム関係者・審判員・運営スタッフが待機できる控室を可能な限り確保する（控室がない場合はグラウンドサイドにテントを設置する等して日陰を確保）。
 - ・熱中症予防のポスターの掲示や会場アナウンスを行い、飲料を購入できる場所を告知する。
 - ・MC はチームの出場可能な選手が極端に少なくなった場合（目安 12 名以下）、安全及び円滑な運営に配慮し、チーム側に試合継続の意思を確認する。
- 審判員として、熱中症対策の一環として下記の項目を実施すること。
 - ・クォーターブレイクでは、審判員も水分補給を積極的に行うようにする。
 - ・審判員の体調不良等の緊急時には、CBO 及びテーブルオフィシャルとのローテーションや、会場にいる他の審判員との交代について、通常は認められない場合においても、柔軟に対応する。
 - ・平日に運動をする機会の少ない社会人、特に常時空調の効いた室内で勤務している方は、熱中症のリスクが一番高いとも言える為、試合当日は早目に行動を開始し、外気温に身体を慣らす時間を確保する。
 - ・派遣前日に止むを得ない事情により、残業による睡眠不足や会食による飲酒があった場合は、通常より熱中症のリスクが高まるため、より一層注意する。

以 上